

ウェルビーイング向上に向けて

国公幼 総会・研究大会 大分大会から

全国国公立幼稚園・こども園長会（会長＝高橋慶子・東京都目黒区立みどりがわこども園園長）は6月13、14の両日、大分県別府市で第76回総会・研究大会大分大会を開催した。研究主題は「子どもたちの明るい未来へとつながる幼児教育の創造—今、国公立幼稚園・こども園が果たすべき役割とは—」。参加者は、個人と社会全体のウェルビーイングの向上に向けた観点から、教育・保育内容や園経営の充実に向けて学び、意見を交換した。

提言は、教育課題（A）、支援教室の木田詞子特任助教、教育内容（B）、園経営（C）教、教育内容は福井県鯖江市の3テーマで実施。教育課市片上幼稚園の茨田隆徳園長は弘前大学教育学部附属幼稚園（青森県）の芳賀理も幼稚園の原田弘子園長が副園長と同附属学校園特別取り組みを発表した。

障害の有無に かわらず ニーズに応じケア

弘前大学教育学部附属 幼稚園・学校園特別支援教室

弘前大学教育学部附属学校園は、特別支援教室（園児と小学生対象は通称「びあるーム」）を設けている。また、遊びの中でわくわくしたことを楽しかったこと、子どもが主体的に活動して共に学び育ち合うための環境構成や保育者の援助について研究を深めてきた。

例えば、入園直後の全ての子どもが不安な時期。保育者はその軽減を図るため、一人一人の不安のきっかけを見取り、少しずつ元気になる働き掛けや環境を整えて安心基盤を広げ、遊びの方法、遊具の提案を

行なっている。「びあるーム」担当者には、保育者と協働し、見取りや関わり方のモデルを示すなどしている。また、遊びの中でわくわくしたことを楽しかったこと、子どもが主体的に活動して共に学び育ち合うための環境構成や保育者の援助について研究を深めてきた。

福井県鯖江市片上幼稚園

遊びの中で友達と 関わる環境を工夫

福井県鯖江市では公立幼稚園4園が協働し、発達

行なっている。「びあるーム」担当者の



「子どもたちの明るい未来へとつながる幼児教育の創造—今、国公立幼稚園・こども園が果たすべき役割とは—」を主題に開催された総会・研究大会の様子

保育への関わりは、OJTとしても機能している。子どもの実態に沿った研修会の開催、保護者の不安に寄り添う子育て相談なども実施している。

連続性を踏まえて遊びの姿を見取り幼児理解を深めること、子どもが主体的に活動して共に学び育ち合うための環境構成や保育者の援助について研究を深めてきた。

近年の園の小規模化で子ども同士や保育者同士の関わり合いも希薄化しており、近隣の園同士の交流の機会や保育者同士が学び合う場も新たに作った。片上幼稚園は令和6年度の「子どもにとっての安心・楽しい居場所を作ること」「友達と一緒にわ

くわくし、楽しく夢中になって遊ぶための工夫をすること」「子どもと共に心揺れ動く感動体験に触れ共感できる感性を養うこと」に重点的に取り組んだ。

このうち「友達と一緒にわくわくし、楽しく夢中になって遊ぶための工夫をすること」では、子どもの思いを引き出し、寄り添いながら必要な素材や用具を準備したり、遊びの中で友達と関わる環境を工夫した。

写真やコメントで伝える掲示を行うなどした。「子どもを取り巻く豊かな自然環境・文化・地域との温かいつながりの深化」では、園庭や近隣の川、周辺の山などの身近な環境の中での遊びの充実を図るとともに、園と地域双方が関わることを良きと感じられるように工夫した。

「つながり合う」を 柱に異年齢保育

松江市立 やくも幼稚園

平成31年に市立八雲幼稚園と市立八雲保育園が統合して開園した、松江市立やくも幼稚園。①子どもと保護者と職員がつながるための教育・保育の在り方の工夫②つながり合うことをポイントにした異年齢保育を意図的に進め、各年齢の遊びがより充実するようにした。園全体で子ども理解を図れるようにするため、保育室入り口などに活動の様子を

「主体性・専門性が高まる組織づくり」では、保育者同士の情報共有を工夫して互いの良さが感じられるようにしたり、職員が得意なことや好きなことを生かす「部」をつくらしたりした。

総会では本年度の活動方針、活動の重点、各部・各委員会の活動計画を決めた。議事の中では、持続的な発展と質の高い幼児教育の推進に向けて、①特別事業と各ブロック研究大会の隔年開催②研究集録の発行形式の見直し（クラウド化）などが承認された。